

コロナ禍での活動は？

九州地区・支部オンラインミーティング開催

「九州校友大会をリの声も…」



本年も新型コロナウイルス感染の危険性を考慮して書面総会を実施したのみで、昨年度より実質的な活動が休止したままとなっています。それは全国の各支部とも同様で、本部事務局より「せめて地方ごとに支部間での情報交換を」との提案がありました。

それを受けて去る7月28日に標記ミーティングが開催され、九州6支部（長崎・沖縄支部なし、大分不参加、福岡2支部）の支部長や事務局長に校友会本部からの参加もあり、活発に意見交換がなされました。ただ、当支部からは事務局長・大江が参加登録しましたが、スマートフォンの調子が悪くほぼ視聴できずに実質不参加でしたので、座長を務めていただきました福岡支部事務局長・原田智昭氏より議事録を頂戴し、それをもとにご報告申し上げます。

* * * * *

案がありました。

特に福岡支部より、来年度予定の福岡県2支部交流懇親会（本年度中に一度役員会を開催し、来年秋頃に実施できれば、との福岡支部よりの提案あり。詳細追ってご案内申し上げます）の計画が紹介された折、他支部からは参加できないか、九州大会は、等の意見があり、今後の課題となりました。

ただ来年度に関しては、昨年より延期となっている仙台で開催予定の「全国校友大会 in 東北」が9月の3、4日と開催されるため、そこだけは日程を空けていてほしいとの本部からの要請がありましたが、来年度こそは何とかこの騒動も収まって計画が実施でき、みんなで顔を合わせる機会が復活してほしいと、切に念願するところです。



・校友会のフェイスブックで紹介されていた新型スクールバス。帝産の観光バスしか知らない世代には驚きのかっこよさで、ついここに掲載してみました。

本年度北豊支部書面総会／結果報告

まず、活動のない中でどのようにつながりを維持していくか、各支部ともに現況に苦慮する様子が報告されました。感染が収束するのを待つしかないのでしょうか、活動がないままに会費を徴収していいのかとか、会とのつながりを継続させるため、何か記念品を送るといった意見が出ました。

また本部事務局からは、オンラインの総会で記念講演をライブ配信した支部の事例や、オンラインデマンド配信されている「心の講座」などが紹介され、対面の楽しさは欠けるが、講演会などはオンラインを活用できるのではないかといった提

6月に行いました「2021年度・北豊支部書面総会」につきまして、反対意見の返信が1通もなく、郵送にてご提案の議事をすべてご承認いただいたとして、その旨ごとにご報告申し上げます。

私の龍大入学は昭和45年、大阪万博の年です。最初の下宿の伏見・桃山で、一人暮らしが始まりました。

毎日の食事は大手筋商店街の大衆食堂での外食。その日のパチンコの結果次第で親子丼か天丼か、日替わり定食AかBか、ラーメンライスに餃子をつけるかつけないか、とメニューが変わります。大概パチンコに負けるので、安くて量の多いものを一人さみしく食し

ていました。
まだ学生運動が続いていた頃で授業があつたりなかつたりと、わりあい自由に時間がと

れたので万博には何度も通ったものです。何人もの高校の同級生が、私の下宿を足場として万博に行くので同行したりもしました。

ポロが持ち帰った〈月の石〉も、簡単に見学。万博期間中は食費を儉約して入場料と交通費に回していたのでいつも空腹でしたが、友達と行ったドイツ館でのチーズとソーセージは感動もので、それは私の空腹だけが原因だ

次の下宿は同じ伏見区でしたが、今度は友達3人と二部屋での共同生活で、インスタン

トライメンをかき込み、流行りのギターを弾いたり、徹夜マージャンの日々。たまに当番を決めて自炊をし、3人とも全くお金がなくてご飯にマヨネースだけの日も多くありました。それでも愉快な毎日でした。

當時、親からの仕送りは月2万円で、下宿代は置一枚1千円でした。二畳(ひざま)一間の(一丈)小さな下宿(アパート)の如しです。

アルバイトは、墨染の寿司屋で配達と回収の仕事。時給270円で、アラの煮付けに奉

ークハイ（編集註：當時流行つたウイスキーの飲み方）は頭が痛くなるし、とてもうまいとは思えませんでした。そんな時に飲んだバクダンはとても強い（編集註：おそらく、焼酎に赤玉ポートワインを加え、サイダーで割つたもの）にもかかわらず、口においしくて、ついつい飲み過ぎてしましました。

気持ちよく「馳走」になつて下宿に帰る途中、急に酔いが回り近鉄・京都駅のホームのベンチで横になつて寝ていたら、警察官から職務質問されてしまうお粗末。以来、酒は程々にせねばと身に染みました。

当時の下宿生の食事情

1974年·文学部卒
大江啓昭

当時の下宿生の食事事情

1974年・文学部卒
大江啓照



それでも楽しい学生生活でしたので、少しでも長く京都にいたいと思ったものです。

夏休みの帰省は、手元に運賃ぎりぎりの2千円になるまで京都にして、いよいよになつたら京都駅20時30分発の夜行急行「日南3号」^(ふぜき)自由席に乗り、12時間かけて実家のある豊前市まで戻っていました。途中、真夜中の広島駅での立ち食いうどんが楽しみでした。

新幹線のない時代は、京都駅～宇島駅間が
何と2千円弱。そんな時代もあつたんです！

50年前を思い出して思うことは、食事は何か食べるか、ではなく、誰と食べるかで味は変わるものなのだということです。

紹介
校友

お寺と写真と赤ちゃんと
プロフォトグラファー



大江香子さんをご紹介します

生家の賢明寺（浄土真宗本願寺派）にスタジオを構え、地元・豊前市を中心にフォトグラファーとして活動中の大江香子さん（2005年文学部卒）。赤ちゃんや子どもを中心に、家族の節目の行事や普段の生活の姿などを撮影した素敵な写真が評判となり、何度も新聞、雑誌やテレビで取り上げられてきました。

大江香子さん、実は2ページで執筆の大江啓照さんの長女で、今回のリレーエッセイをどなたに依頼しようか迷っていたとき、大江さんの方なら3人が校友なので（滋賀から来られた香子さんのご夫君、英崇さんも校友です）誰か一人ぐらいは受けてくれるだろうとお願いしたところ、結局エッセイはお父さんの啓照さんにお引き受けいただきましたが、その時、そういえばと香子さんのことと思い出し、こうして掲載に至った次第です（決して“ついで”だけではありません。お察し下さい）。

や誕会実行委員会に参加し、充実した学生生活でしたが、特にカメラに興味があつたわけではなかつたとのこと。

契機は今から6年前、赤ちゃん撮影会のモデルの募集に長男の唯成くんを参加させた折、「いつもの2倍も3倍も可愛い、はじけるような笑顔」を見て、「こんな表情を引き出せるなんてすごい」と思い、その技を身につけたいと思ったことでした。

以来、福岡をはじめ遠くは大阪、東京まで通つてカメラの基礎からプロカメラマンとしての技術までも習得し、現在では年間150件ほどの依頼を受けて赤ちゃんや家族の写真を撮影しています（それらの作品はどうぞSNSにてご覧下さい）。また、近隣の自治体や企業から依頼を受け、カラ講座の講師としても活躍中です。

もともと「赤ちゃんとお母さんのための

教室」としてベビーマッサージ教室を開催していた香子さんですが、現在は「お寺と写真と赤ちゃんと」のキヤッチフレーズのもと、ベビーマッサージ教室とフォトスタジオの二つの内容を持つ「紬（つむぎ）」の代表として活動しています。

また賢明寺の若坊守（編集註一淨土真宗寺院の若奥さん）として法務にも携わり、ご夫君の英崇さんとともにウェブメディアの運営や日曜学校（子ども会）やお寺マーシュ、お寺ジャズなどを通して地域振興にも奮闘中と多忙な毎日を送る香子さんですが、子どもさんやお孫さんでご希望の方がおられましたら、ご一報されてみられたらいかがでしょうか。きっと新しいご縁を喜んでいただけることと存じます。

なお、連絡先はP.4に掲載していますので、そちらをご覧下さい。

訂正とお詫び

左記2点の記載ミスにつき、訂正のうえ、関係の皆さんには深くお詫び申し上げます。

1、「黎明」9号P.4（写真説明）

《誤》下、新会員の真田久遠さん

↓《正》 // の真田久音さん

2、6月10日付会員名簿

《誤》No.111／横尾微／（逝）同上

↓《正》 //

（逝） 荻田町

*お一方の「生前中の」協力に感謝し、謹んで敬弔の意を表します。

事務局より

物故会員のお知らせ

1971年・文学部卒

大森信夫さま（令和3年4月21日歿）

1985年・文学部卒

日野真人さま（令和3年6月23日歿）

（『黎明』1号・リレーエッセイ執筆者）

龍大時代は東洋史を専攻しつつ、海外交流委員会（学内の留学生のサポートをした）、留学生と交流を図つたりするサークル）

・地元、豊前市の市民講座「ラ♥ぶぜんプロジェクト」の講師として、写真撮影の指導に出張中。中央、赤い服が大江さん。各地、各方面から依頼があるそうです。



龍谷写真館 i n 北豊

・右、スタジオでの撮影中の様子。
この写真は読売新聞の取材を受け、
2019年1月3日の朝刊に掲載
されたものを転載しました。



連絡先

ベビーマッサージ教室 「紬（つむぎ）」
ベビーフォトスタジオ
豊前市八屋1347 賢明寺内
TEL. 0979-83-3647



校友紹介



プロフォトグラファー

大江香子さん

・(上、下、左上)詳細はP.3をご覧下さい。



・賢明寺本堂前でご夫君の英崇さんとツーショット。大学時代の同級生だそうです。



校友たちの青春 / その2

・後列右から2人目がP.2執筆者の大江啓照氏。
大学卒業の夏、近隣の龍大生（卒業生、現役、入
学予定者と様々ですが…。要は当時の豊前、上毛
の青年僧侶の会）との旅行時に撮影した写真です。

事務局雑感

▼まるで今までのことが予行練習だったかのように、新型コロナウイルスの感染者数が増加の一途をたどっています。昨夏を思いだすと、これは大変とではなかつたのですね。ワクチン接種がすんでいるとはいえ、変異株の猛威など、大騒動していましたが、たいしたことではありませんでした。ただ、それは新型コロナ問題に限ったことではありません。お釈迦さまはこの人間世界の有様を「無常」と喝破されました。時の流れの中で、どのような縁に触られ、どのように変化していくか、残念ながら私の計算では予測のつかない私のいのちの姿です。そこには人間の不安の根源があり、「一寸先は闇」といった言葉が生まれてくらむばかりではありません。一寸先に何があるのか、一寸先は闇か光か。今のこの状況が私たちに何を問いかけているのか、仏さまのお智慧をもって受け止めることができたとき、無常なればこそ、そこに希望を見出だしていくことができるのです。▼ちょっと硬い文章になってしましましたが、喉がカラカラに渴いた時のビールの美味しさを胸に秘め、またみんなで楽しく乾杯できることを楽しみに待ちたいものです。新型コロナウイルスに加え、まだまだ残暑も心配です。どうぞご自愛下さい。

〔記・O〕